一人一人が 安心して 自分のよさを発揮できる学校

武蔵野小だより

令和３年７月１日発行

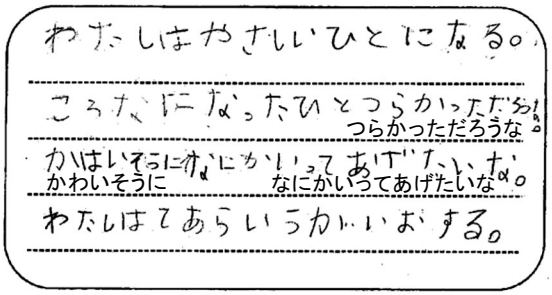
感染症に関する差別・偏見の防止に向けて　その２

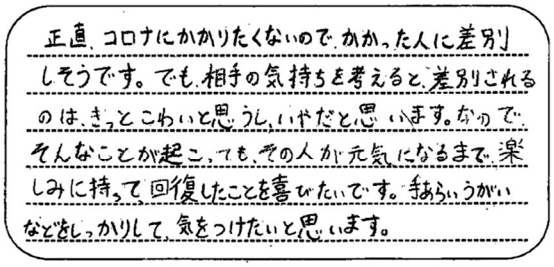
梅雨の晴れ間に夏の気配を感じる頃、翌日の天気を気にする子どもの姿を見かけます。

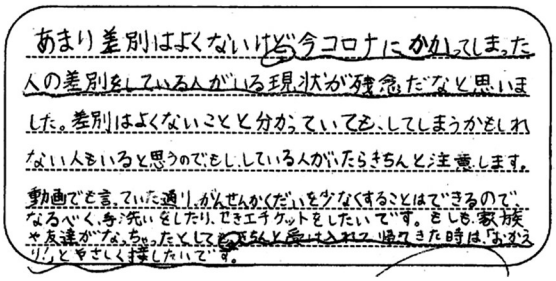
さて、感染再拡大が懸念される中、子どもの置かれた環境に変化はなく、感染防止に最大限留意することにも変わりはありません。

先月は、昨年度に引き続き全校で**「今、自分にできること」**についての学級指導を行いました。国の資料などを活用し、感染防止に加え、差別や偏見を生まないための啓発を進めるものです。１年生には初めての学習となりましたが、一人一人が自分のこととして真剣に考え、学習中の平仮名を使い自分の気持ちを表現することができました。

また、他にもやさしい気持ちにあふれる感想や、自分の内面や社会の状況を直視し、その上で友達を大切にしようとする感想などが多数見られました。子どもたちの素直であたたかい気持ちに心の成長を感じます。



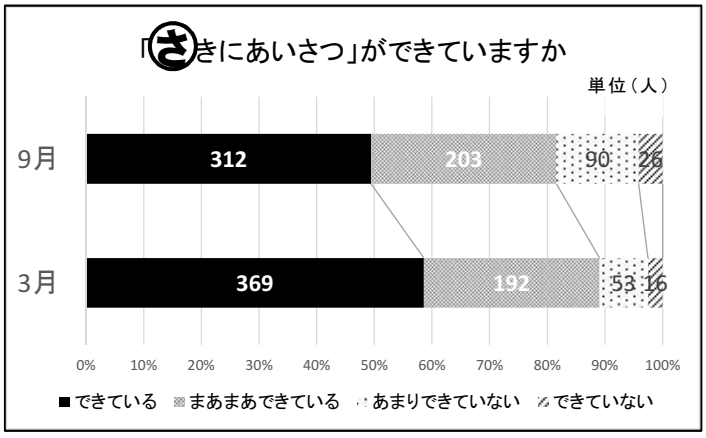




〔児童作文〕　上から１年生
５年生　　６年生

武蔵野小学校の三本柱（むごんせいそうさきにあいさつしずかなろうか）について　その２

今回は**「先にあいさつ」**についてお伝えします。あいさつは、国や年齢にかかわらず人間関係づくりの第一歩であり、人間らしく生きていくために大切な習慣です。



「明るくあいさつをしてくれる子がいます。」と電話を頂戴したり、「目を見てあいさつする子が多くて嬉しい。」と来校者からほめていただいたり、子どもたちは、「あいさつ」についてもよく頑張っています。それは昨年度のアンケート結果にも表れており、努力を大いに認めてあげたいと思います。

今後はさらに、地域の顔見知りの方などに、校外でも自分から進んであいさつができるように励ましていきますので、各ご家庭でのご協力をお願いいたします。

ほめて認めて、叱って諭し、また、ほめて伸ばす